

景色と手間を 楽しむ暮らし



大きな窓からの景色を主役とした広間空間。4.5間×2.5間の大きな空間の中に、薪ストーブや石貼りの窓際など、様々なスペースをつくっている。

完成現場報告

島田市／『旬の家』

文・写真／ココラボ 山崎健治

新年が明け、今年も一年がスタートしました。昨年は藤枝市に完成した『木の保育園』の設計監理をはじめ、二世帯住宅やリフォームなどの建築にも携わる事が出来ました。建物の用途や規模、また住まい手の希望や条件などは様々あり、一軒一軒にストーリーが生まれていくものだとつくづく思います。同じ木の建築ではありますが、敷地条件や空間の違いによっても見え方が異なり、完成すると、どれも思い出深い建物になっていきます。

当社も今年で13年目を迎え、様々な方と出会い、たくさんのお声をいただきました。日々、木の建築と向き合い、素材や技術、納まりや性能などを考えていますが、いつもの流れの中で仕事をしていると、慣れや隙などが生まれ、業者や職人とのやり取りにも甘えが生まれてきます。信頼できるチームでの家づくりは安心して任せていただけますが、適度な緊張感やチャレンジ、初心

に立ち戻って考える思考も時には大切なのだと感じています。

今回ご紹介する『旬の家』は、設計監理をココラボが行い、施工を施主Kさんの友人が営んでいる工務店が行いました。お互い初めてのコラボレーションで、不安や緊張もありましたが、新しい試みへの挑戦にワクワクし、また、お互いの考えをぶつけていくやりとりの中の発見も多くありました。私たちには当たり前になっている構造材の現し構法や自然素材の仕上げ、また、軒先の納まりや板金形状などについても、初めて施工する工務店から見れば、どれも不安ばかりだったと思いますが、施主のKさんや設計者の思いを受け止めていただき、最後まで丁寧な仕事で答えてくれました。中でも大工の仕事は大変で、通常なら隠れてしまう部材も見える納まりが多く、気の抜けない仕事だったと思います。新しいチャレンジには不安も多かったと思いますが、工事の手順や下準備などをしっかりと行い、些細な部分まで綺麗に仕上げてくださいました。施工の苦労は写真では伝わらないと思いますが、今回の通信ではそんな職人のチャレンジも感じながらご覧いただければと思います。



東から見た外観。道路からの見え方を意識して、広間棟の屋根を少し高くし、個室棟の屋根を見せない工夫をした。ガラス窓は3間を4枚の建具で分割している。



右) ダイニングからの眺望。一面に茶畑が広がり、その奥に富士山が見える静岡らしい景色。

左) 窓を開け広げると内部のレイアウトがよく分かる。窓上の欄間ガラスも効果的で、空の広がりを一段と感じる事が出来る。

した。しかし、景色の広がる茶畑はやや北東の方角で、暖かさや採光面で考えると期待は出来ません。また、敷地の南側には近い将来写真撮影時に建築中住宅が建つ事がわかっていたので、大きな窓をつくってもプライバシーの面から逆効果になると感じました。最終的に、眺望の窓と採光の窓を分けて考え、お互いの窓が対面する事で通風を確保するプランとしました。広がる景色を取り込みつつ、夏の通風と冬の暖かさを得る事が出来、満足度の高い広間空間が出来ました。大きな窓は、コロボではおなじみの木製のガラス窓や網戸、雨戸などを両袖の壁に収納し、季節に合わせて建具を出し入れできる工夫としました。

広間は少し高い勾配天井とし、登り梁の力強さを感じつつ、開放感あふれる空間となりました。大きな窓と合わせて、Kさんの要望の中でウエイトを占めていたのが土間収納。自転車やカヌー、サーフボードなどが、ある程度の広さと使いやすさ動線などが求められました。頻繁に出入りする場所になるため、玄関と分け、駐車場に近い位置に少し広めの出入り口を設けました。趣味のアイテムに加え、薪割の道具やキャンプ用具なども収納し、見た目にも楽しみがいっぱい詰まった収納になりました。

土間収納には、小屋裏に登るアイアン階段を取り付け、空間を無駄なく利用しながらも、デザイン性のある空間が出来ました。

敷地条件を読み取り、形状や方位を生かした間取り

『旬の家』の敷地は三角形。採光や通風、窓からの景色を考えつつ、敷地形状に合わせた部屋の配置を組み立てていきました。敷地選びの際に変形した敷地は敬遠されがちですが、設計者にとっては腕の見せ所！敷地を余すことなく利用し、整形地にはない、ゆとりのスペースや楽しい空間をつくるが出来る魅力いっぱいの敷地なのです。



三角形の敷地と景色を取り込む窓

Kさんとの出会いは藤枝市で行った『豆の家』(コロボ通信62号)の完成見学会でした。ご夫婦で参加され、木に包まれた空間やアイアンを使ったデザインなどを気に入っていただき、設計の提案をさせていただくことになりました。お会いした時にはすでに候補の敷地が決まっておりましたが、広さも環境も気に入っていましたが、ひとつだけ不安がありました。それは三角形の敷地形状でした。

敷地の広さは十分にありましたが、この敷地にどんな家が建つかイメージ出来ず、不安を持っているようでした。暮らし方や動線などの要望を伺い、最終的に平屋の提案をさせていただきました。平屋で計画しようと思うと、敷地形状に合わせた斜めの部分が出てきますが、収納やサンルームとしてスペースを利用し、生活の中では敷地形状を感じさせないプランが出来上がりました。

敷地形状と合わせて私が悩んだのは、方位と窓の関係。今回の敷地の東側には茶畑が広がり、茶畑の延長には富士山も望め、開放的で清々しい景色のある敷地でした。全面道路は農道のため交通量が少なく、開放的なプランでも隣家や通行人からの視線も気にならないという事で、景色を取り込む大きな開口部を設けたプランを考えました。



薪ストーブはWAMのHWAM.classic.4。少しワイルドな形状で、上中下のパーツがセパレート式で、組み合わせる事が出来るタイプ。愛猫もここがお気に入りの場所。



薪棚はアングル材を使ったKさんオリジナルの作品。家の形にも馴染み、スッキリとたくさん置ける薪棚。



キッチンを正面から見る。アイランド型のオープンなキッチン。作業スペースが広く確保され、キッチンを囲んで数人でも作業出来るスタイル。キッチンの脇にカウンターと棚板のコンパクトな家事コーナーを設けた。



床の仕上げを変える事で、空間に変化が生まれ、心地よい居場所をつくる事が出来た。大谷石は空気をたくさん含んだ石のため、それほど冷たくならず、程良い柔らかさを感じる素材。



広間の中心に設けた薪ストーブ。露台に大谷石を敷き詰め、そのまま窓際まで伸ばした仕上げとし、ダイレクトゲインの蓄熱体としても利用している。

手間を楽しむ暮らし

暮らしの中で欠かせないアイテムとして、Kさんご夫婦は、設計当初から薪ストーブを希望されていました。暖かさはもちろんですが、薪ストーブを使ったお料理や炎の揺らめきも魅力的。冬の暮らしの中心として取り入れていきたいと考えていました。薪ストーブを考える時に、頭を悩ませるのが設置場所です。どこからでも炎が見えるべく効率的に部屋を暖められる場所。また、お料理にも使いたいと考えると、キッチンからの距離も気になります。今回は広間の中心に設置し、薪ストーブの正面にダイニングテーブルを配置しました。キッチンからも近い場所となり、使い勝手や距離感も良く、広間全体から見ても外観から見てもバランスの良い配置が出来ました。薪ストーブの床には大谷石を敷き並べ、そのまま窓際まで伸ばしてダイレクトゲインの蓄熱体としても利用しました。床の仕上げが変わることで空間に区切りが生まれ、雰囲気のある窓際をつくる事が出来たと満足しています。

薪ストーブの一番の苦労は何といっても薪の準備です。切ったばかりの木は使えず、一年以上の乾燥期間が必要です。当然薪を乾燥させるための薪棚も必要になり、力仕事と合わせてスペースを確保して置くことが求められます。暖房器具としてだけの機能

能を考えるなら、ここまで手間のかかる薪ストーブを選択する方は少ないと思います。薪ストーブには手間を掛けた以上の楽しみや魅力があります。薪の準備も一人では大変ですが、仲間と集いワイワイをやるのも楽しみのひとつ。また、薪づくりを通して山の景色や空気を感じたり、美味しい山の幸にも出会う事もあります。便利になり、なるべく手間をかけない暮らしが望まれている現代ですが、薪ストーブを通じて、あえて手間を楽しむ暮らしを見つめ直す事も、大切な事だと感じます。

手間と言えば、毎日お料理をつくるのも手間ひまの掛かる大変な事ですが、キッチンに一人でこもってつくるのではなく、あえて広間の中にオープンなキッチンを配置し、家族で、また友人などと共にお料理を楽しむ事の出来るプランとしました。キッチンなどの機器は、設備関係のお仕事をしている奥さんを中心にしてレイアウトしました。アイランド型のオープンなキッチンで、作業台スペースが広く確保されているのが特徴です。家族や友人などと、キッチンを囲んでワイワイと楽しく作業出来るスペースになりました。



土間収納内部。自転車やサーフボード、キャンプ道具などが収納されている楽しいな場所。アイアンで製作した階段が一段とワクワク感をアップさせてくれる。階段を上がるとロフト収納につながっている。

仕様内容

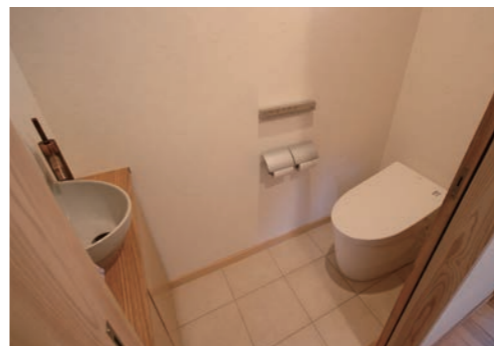
家族構成	家族3人
敷地面積	315.37㎡
建築面積	106.56㎡
延べ床面積	126.69㎡
構法	在来工法
外部仕上	屋根 ガルバリウム鋼板 タテハゼ葺き 外壁 ガルバリウム鋼板 角波縦貼り マサ土掻き落し仕上
外部建具	木製オリジナル建具 ナラ、タモ(ペアガラス) アルミサッシ(ペアガラス)
内部仕上	天井仕上 杉板本実張り 厚12mm 壁 漆喰塗り、クロス貼り
内部建具	床 栗本実板 厚15mm、杉本実板 厚30mm 内部建具 オリジナル木製建具、葛布ガラス入框戸
設備	キッチン TOTO システムキッチン 洗面化粧台 TOTO システム洗面化粧台 浴室 TOTO システムバス
設計者	山崎健治
施工	門田建築(静岡県牧之原市)
竣工	平成28年7月



玄関内部と玄関ポーチ。玄関は開けると奥に広がり、上り下りのスペースを長く確保した。正面には飾り棚を設けた玄関収納を設置し、地窓で足元を明るく感じさせる工夫をした。



ロフトのある子供室。4.5帖の子供室に1.5帖のロフトをプラス。ロフトは廊下の上部空間を使用している。



コンパクトな空間だが、手洗いと収納を効率良く配置したトイレ。床にはサーモタイルが敷かれている。

廊下の一部に設けた洗面スペース。奥のガラス戸を開けるとサニールームにつながっている。



尊敬と信頼と思いやり

親子や夫婦などの家族の関係では、気を使わず何でも話せたり相談したり、時には喧嘩や不満もあるけれど、ひとつ屋根の下で暮らしていく中でお互いを大切に思い、接していけるものです。家づくりの過程の中で、施主と設計者、または設計者と施工者との間に家族ほどの関係が生まれるわけではないですが、打ち合わせや何気ない普段のやりとりの中で、相手の気持ちや性格、好みなどを知り、その人に何が合っているか？ また、どのように伝えたら良いか？などを考え、様々な提案や説明をしていきます。人と人との関係は、そのつもりはなくても誤解されて伝わったり、また、思い込みや安易な受け答えで間違いをおこしてしまうケースもあります。じっくりと時間をかけて対話を積み重ねていく事で、お互いを理解しあい、家づくりの後も良き理解者としてお付き合いをしていく事が出来ると思います。しかし、現代の家づくりの中には、効率やコストなどを重視するあまり、相手の事を知るより前に、暮らしに合わない間取りや性能を提案する業者も少なくありません。時間を掛ける事がコストアップにつながる事もあるとは思いますが、住まい手の気持ちになって接していく事が、逆に無駄な時間を無くし、効率の良い打ち合わせを重ねて行く事にもつながると思います。

冒頭でもお話しましたが、今回の家づくりは施主の友人が工事に携わってくれた事で、初めての設計と施工のコラボレーションでもお互いが歩み寄れ、とても良い関係の中で満足のいく住まいが出来たと思います。新しい納まりや仕上がりにも耳を傾けてくれ、設計の意図を理解した上で施工してもらえたと思います。また、施主と施工者との関係も友人同士という事で、和気あいあいと進み、信頼関係の中で相手を思いやる気持ちが伝わる家づくりでした。しかし、今回のようなケースでなくても、設計と施工、施主との関係は、尊敬と信頼、そしてお互いそれぞれが、思いやりを持って行われていくものだと思います。住まいが商品化されていく現代の家づくりの中で失われていきがちな部分ですが、やはり家づくりとは、人と人との関係が大切なプロジェクトで、家をつくるまでではなく、その後の相談やメンテナンスなどを含めてのつながりが大切だと思います。心地よい暮らしをつくるための家づくり、関係づくりをしていきたいと思えます。